

戦後日本女医会の再発足を目ざして昭和参拾年五月松本樓に第一回の総会を開催し此処に滿三ヶ年を経過致しました。其の間先輩諸姉の協力のもとに各同窓会及其他より選出された役員が主となり差当り至誠会、鶴風会及加多乃会の地方支部長に御協力を依頼し地区的に全国に向つて呼びかけました。昭和参拾貳年末には全国各府県に約七十の支部を結束するに至り本部より支部を通じ全国の女医会員に連絡が出来得るに至つた事は皆様と共に御同慶に堪えない次第であります。今後は国内に散在する一万余の女医が必

日本女医界誌の発刊を祝す

吉岡会長に代りて

副会長 佐藤 や い



複刊【才1号】

く機関紙をも発行する事の必要性を生ずる氣運にまで到達しました。之によつて各地方に本部の状勢を連絡し又地方会員より本部に通じ速かに会員に連絡を流す事が出来るまでに至つたのをうれしく思います。

戦前既に先輩諸姉の御努力により当時は会員尙少数でしたが本会は日本女医会雑誌を隔月発行しておりました故多川澄子女史により日本女医会創立五十周年を期し日本女史の編纂をも企てられましたが不幸にも其の途上に於て御逝去され加ふるに故杉田鶴子女史の逝去等目的達成に至らなかつたわけでした。会員諸姉の協力により今後は日本女医会としての団体の下に時代に適應した計画を移行に移して行く事が出来るわけです。

第一回の総会以来本会としても既に小林、宮坂、大原女史等を日本女医会代表として海外にお送り致しました。更に今年七月には国際女医会がロンドンに於て開催され招請により日本女医会代表として二、三名出席を予定されております。国際女医会に加入する事は昨年本会の総会に於て可決された事実は皆様既に御承知の通りです。今回はオプザーバーの立場に於て出席され本年度のロンドンの総会に於て恐らく議題として提出され日本も国際女医会に正式加入が決定される事と存じます。更に今年八月には第八回汎大平洋東南アジア会議が東京の国際キリスト教大学に於て

開催される事は既に決定されております。本会よりも山本杉（至誠会）牧野夫佐子（加多乃会）の両女史が出席され提出されている議題に対し日本の女医として研究業績を表される事になっております。

今後は益々国際的にも進出する機会が多く又国内では主要なる団体の一つとしてなすべき役割が多々ある事と思ひます。それには我々女医は小さく自分の持場のみに守るに止らず常に広汎なる眼界を以つて医学に対する研究的態度を失わざる事は勿論、一方社会人として高邁なる積極的進出を望む次第であります。

御病床中の吉岡会長をお慰び申上げる時今更の如く我々は責任の重大なるを感じ、今後益々努力し日本女医会の発展を祈る次第であります。（昭三三・四・六 記）

日本女医界誌の

発行を祝いて

福井繁子

陽光うららかな靈犬の背に乗つて春は静かに地上を被い、にこやかな花の顔、心地よい緑の袖に慈愛深き微笑を

つたのみで、前期後期に分れ、三年の課題で千名の男学生中わずか数名の女医学生が在学しておりました。筆者が同校を経て医術開業試験にパス致しましたのは明治二十六年三月で、今から丁度六十五年前でございます。当時の東京には女流で一番最初に独逸に遊学せられたる高橋瑞女史筆者と同期の吉岡彌生女史をはじめ僅か十指に満たぬ先輩諸姉がおられたが、なお影薄き存在でございました。筆者は同年七月に大阪に移り諸方病院産婦人科長諸方正清先生に師事致しました。当時の大阪には東大出身の四名の医学士と両三名の独逸ドクトルがおられ、女医は一名もいませんでした。しかし当時の天王寺に古く徳川時代に城代板倉周防守の姫君の難産を処理し有年女という名前を戴いた有名な佐伯有年女という女医がおられ、お産なら有年女さん、と、独り大阪のみでなく汎く近畿地方に盛名を馳せ、専門医として今日なお存続しておられます。

今から五十五年前に東京の済生学舎が閉校になり、其後を享けて創立せられた吉岡彌生女史を校長とする東京女医学校の開校あり、同校は時代の要求と女子向学心の勃興に拍車をかけ、日と共に盛大となり、竹内茂代女史を筆頭に五千余名の女流医家を社界に送り日本唯一の東京女子医科大学に昇格せしめられました事は、われわれ女医あげての誇りでございます。又女史の天賦の華やかなる鋭志と才能

浮かべ、あらゆる生物を抱きあげてくれた。衝動的でなく爽快で落ちつきのある新緑も身近に感ぜられる今の好期をぼくし、待望久しかりし再生日本女医会誌が愈々発行せられることは快心事中の快心事で、皆様とともに声を大にして感激の万才を三唱致す次第でございます。同時に直接衝に当られた本部役員諸姉の、並々ならぬお骨折、ご配慮に對して満腔の感謝とお祝詞を披瀝し、多に前途を祝福してやみません。このお目出度い日に当りましてわが国女医誌の発行を目前に控え愈々国際女医会への加入も実現し、前途洋々たるの際、皆様とともにわが国女医の歩みの跡を辿り、大小往時を追懐してみようと思ひます。

わが国には随分古くから女医学博士があり中央地方を通じ女流産科医は断続的ではあつても明治の初年迄命脈を保つていたようです。現行医師法の制定ができ、勇躍トップを切つて医術資格を得られたのは皆様ご承知の荻野吟子女史でございます。四年前再起日本女医会発会式の当日、幹部代表皆様の故女史の展墓はまことに故ある次第で感激深き次第でございます。当時わが国の医育機関としては東大医学部と時の衛生局長、長谷川泰先生を校長とする医学校済生学舎が本郷の湯島にあり、東大教授、助教授方が教鞭を執つておられその他には少数の学塾があつたにすぎません。しかも女子の就学といえは唯一の済生学舎の共学があ

は当時きわめて幼稚な日本婦人層に一大巨星として輝き、よく奮斗し、よく指導し筆者と共に東西相呼応して盛んに活躍しました。東の吉岡、西の福井とうたわれ、華々しい存在であつた者です。吉岡女史自身も筆者に向つて、あなたと私なら何処へ行つても何を云うても構わぬ存在じやと自負しておられました。今は惜しくも病床におられます。今一度健康を快復せられんことを祈願し切望してやまぬ次第でございます。今を去る五十余年前頃から日本女医の海外留学がぼつぼつ始められました九州天草出身の宇良田唯子女史が独逸に留学し、ドクトル・メヂチーネの学位を得て帰朝せられたのが西一八七二年、その翌年千八百七十三年に筆者が渡欧、マールブルグ大学に入学七十八年に帰朝致しました。

さて本題にもどりますが、東京女子医学校の設立から数年後額田先生が東京に帝国女子医専（今の東邦医科大学）を設立され、一、二年後浜地藤太郎氏によつて大阪女子医専（今の関西医科大学）の開校があり、三者相呼応して盛んに女医の養成に勤められました。これに先だち明治三十五年には故前田園子女史によつて、日本女医会が生れ、後に吉岡彌生女史を会長に筆者が副会長となり、大阪には筆者を会長とする関西女医会が誕生致しました。それから間もなくわれ等の機関誌日本女医会雑誌の発行が実現致しま

した。かくて号を重ねていましたが第二次大戦の推移が追々深刻になつてきまして、物資の統制が強化致しますにおよび、残念ながら必然的に雑誌の発行も女医会の会合もストップ止のむなさに立ち至りました。敗戦の忙しき内に歳月は夢と流れその傷痕なお癒えやらぬ数年前、本部役員諸妹の熱意は再生日本女医会の結成となり、力強い進出を見るに到りました。このように会誌も会合も不可能となりましたが、昭和二十年敗戦の憂目のなから天降り式に与えられた男女同権、婦人参政権の行使は女医社界にも打てば響けと大なる波紋を投げ、東京の竹内茂代、京都の富田房子、神戸の中山玉子の三女史が立候補せられ、目出度く当選せられました。その間、至誠会（東京女子医大同窓会）鶴風会（東邦医大卒業の女医を持つて組織せられる同窓会）加多乃会（関西医科大学出身の女医をもつて組織せられる同窓会）その他各大学出身の人々等にて組織せらるる団体、と四つの女医団体は大いに浮かび上つて来、今や日本女医会も遊色なき立派な女流最高のインテリ団体となつてきました。

一昨年国際女医会長ドクター・リード女史の来日時のお話、現時の米国で女医の総数は約一百万位で、独身者が相当多いとの事でした。先般中共の医療団が来日せられ大阪で公式レセプションがありました際のお話、同

国では全然男女の別なく、すべての要職、すべての施設に任命し、均等の待遇を与えておられるそうです。何分人口六億余に対し、医者が大不足の現状で、いづれの大学でも殆んど同数の男女医学生が勉強しておられるとの事でした。

さて本問題でのお話は大略結末をつけたと思ひますが、ここにひとつ皆様方の真剣のご奮起を促したい緊急事態が起つております。われわれ国民はあの未曾有の大きな敗戦の傷跡を負担し、外見上はめざましい立ち直りを見せたようですが、なおこれからの感を深くするものでございます。われらの周囲のみをみましても沢山の戦争未亡人がおります。数多くの戦争孤児がおります。子を失つた老人群がおります。戦争の犠牲で結婚の対照を失つた多くのオールドミスがおります。原爆の犠牲者がおります。岸首相の三悪追放の約束も殆んど停頓して解決を認めません。多くの民衆は生活ノイローゼ、住宅、交通地獄、就職、入学等各种ノイローゼ、恐らく開国以来のノイローゼ全盛期を暴露しております。女医会としても此等多くの不幸事に対し決して無関心ではあり得ない訳で色々頭をひねつておりますが、最大の脅威で一日も等閑に附しておられぬのが例の核実験に依る空気の汚染であります。我国は地理的關係上北のソ連、南のアメリカ、それに互する英国の類々たる実験の結果、遂次放射能の含量を増し今にも全滅する様な心配

で国民みな放射能ノイローゼに追い込まれております。然しこれは単に日本のみの問題ではありません。つぎつぎに全世界人類の死滅を招来する大問題でございます。よろしく女医会は本問題を提げ国際女医会と提携全世界の婦人層を動かし、断然核実験禁止運動に挺身、全人類を泰山のやすきに置く事は真の世界平和の要でもあり、有識団体たる女医会の尊き使命と考ふるものでございます。切に皆様の力強い御奮起を熱望して止みません。

日本女医会雑誌について

福田 幹子

本紙（復刊第一号、通巻第百二十号）の生い立ちについて書いて見たいと思ひます。

日本女医会雑誌（以前はかく称しました）は大正二年六月に生れました。

日本女医会の発足は明治三十五年その頃はまだ専門学校の（女子の入学を許可されたもの）ない時代であつたから女医は文部省の医術開業試験に合格したものと、及び一、二

の外国でドクトルの資格を得て帰国したもののみであつた。学校も女子の学校は東京女医学校（現在の東京女子医科大学の前身）だけでありました。発会当時の会員は二十名ばかりで会長は前田園子女史（吉岡女史の先輩）でありました。年二回の女医会を開催して、お互の親睦をはかり女医の発展に資して居りました。折角会が出来たけれども会誌がなくては全国に亘る会員に連絡する事も出来ず、情報を集める上にも不便であり、会の意義もわからないからと、会誌をつくることに決定し、大正十二年六月に第一巻第一号を出版、その時の発行人は故杉田鶴子女史、編集人が故多川澄子女史で、私共は（島峰、児玉、佐藤、三神、大野、福田等）その編集委員を担当して居たのでした。思へば発刊以来三十五年の歳月が流れています。第一号から第三十号迄は年二回出版し、四十号までは年三回、四十号からは隔月出版になつていました。その会誌を覚えて居られる方々もあると思ひますが、今になつてこれを見ると、よくかくも編集したものだと思心するほどの出来ばえでありました。広く世の中の情勢、思想、学術、臨床瑣談、文芸に至るまで会員諸氏の投稿も多く、又編集員は原稿取りによく歩き、時々編集旅行等（これは又費用自弁のケチな旅行であつたが）も催して材料の蒐集につとめたからであつたと思ひます。其他社会事業にも貢献するところがあ

りました。例えば救護事業に、小児福祉等にも力をつくしました。

発行当時の部数が三百部ばかり、百号が出るようになっても二千部に達せなかつたかに覚えています。私はこの記録をかくに先だちて日本女医会誌を一号から百十九号迄ぎつと眼を通したけれど、雑誌以外の事務書類が焼失したためか、会員数と発行部数の正確な数字を調べ得なかつたけれど二千名ぐらいの会員でこの会を支え、会誌を発行して居たのは世の中が現今のようでなかつたのにも原因するけれど、故多川、杉田両女史の心からなる努力と御熱心とを偲ばねばなりません。私は今日本女医会雑誌のこれ迄のあり方を紹介すると共に、日本女医史のことに就いて一言述べさせて戴きたい。

日本女医会雑誌発行とともに夙に日本女医会の編纂を思い立ち、古くは徳川時代における有年女と云つた頃から明治初期現代に亘つて、その材料を集めることに専念しました。これは故多川女史によつて殆ど完全に集められておりました。そうして多川女史は昭和十八年一月から毎週一回づつ、日本女医会五十年史と云ふのを日本医事新報へ連載され、回を重ねること二十六回に及んだけれど女史の健康その他の故障で中絶し、昭和十九年二月発行の日本女医会雑誌第百十七号から、そのつづきを執筆されたけれど戦

争のため雑誌の休刊のためこの仕事もそのままになつて居りました。戦後になつてからも、世の中が少しおちついたら又続けたいといつておられたけれど、三年前惜しくも逝かれたので、残念きわまりもないことであつたが、しかし資料のみはよく保存されてあつたので、先年私が女史の宅へ来上り日本女医会へ持参いたしました。私は早くこの仕事を始めたいとの意欲に燃えています。編纂をしようことには昨年総会で議決されましたが資金面において行きつまずり末だ手をつけることの出来ないのを誠に残念に思つています。只々会員諸氏が真剣にお考え下さつて、大いに御支援を賜りますよう念願してやみません。なお日本女医会誌は一日も早く月刊にいたしたいと思つて居ります。どうぞ皆様からの御投稿をお待ち申上ります。

三三・四・三〇



日本女医界總會記

戦災と共に焼失してしまつたのではないかと思われた、わが日本女医会が、ともあれ集會らしいものを持つことが出来たのは去る昭和三十年五月八日の事であつた。

戦前日本女医会は永い間、事務所を故杉田鶴子女史の許にお願ひしてあり、女史の厚情と熱意とで大方の事務が運営されていたのであつた。従つて女史の戦災や疎開で名簿をはじめ何もかもが消失四散してしまつて、戦争末期には名のみ事務所が牛込の東京女子医専内に置いてあつた。其の上戦時と同時に吉岡会長が追放の憂目のかん口令に会い学内への出入さえも禁じられてしまつた。

然し会長はこの時、乱脈、虚腔の今日こそ指導的立場にある女医の固い団結が最も必要である、といわれて日本女医会役員との連絡のとれる限りの人々を促し、各同窓会幹事諸姉に謀り、会長宅に、至誠会事務所にと、頻々と準備会を持ち、ようやく戦後初の全国的の集りが出来たのであ

大村 ひ さ ぶ

る。参加者は五十二名であつたが各自活発な意見を出し、逐条審議を以つて先ず会則を改め、同時に参加者一同日本女医会に再入会の手続きを取り、会費も即刻納入する等のことによつて、これを日本女医会再発足後の第一回の総会とするということになつた。即ち前記の三十年五月八日、於松本楼（日比谷）でのことである。

而してこの改制会則中に会長は総会に於て選出し、副会長以下の役員は夫々の団体に於て互選することになつた。

この時、定方かめよ女史の発言と龍風会々長の賛成発言で、吉岡会長の今日までの功績に対して、たとえ病中であつても、会務は四副会長が充分に補佐することが出来るというので会長は吉岡会長就任に満場一致可決。こゝに第一回総会は目出度く終了となつた。

第二回 総 会

昭和三十三年十月十三日、同じく松本楼にて開催。

先づ佐藤やい副会長の辞と会長の挨拶を代理して、簡単に本会の歴史を述べ、次で戦禍によつて冬眠状態になつていた本会が今日に到達した経過、即ち国内都道府県の殆んどの地域を遊りし、津々浦々で会員各位の熱心な協力を得て全国に支部が結成された顛末を感謝と共に語り、今後の在り方として国の内外に対する力強い希望を述べ着席せられた。

庶務報告として立たれた小俣喜久子女史は、第一回総会以来毎月交互に開催された役員会、評議会、施行事項中から簡単に次のことを挙げられた。各支部結成と本部からの出張した人名。国際女医会アジア地区会議及び国際女医会に代表として出席した宮坂、小林、大原諸女史等の件、原水爆実験中止、核兵器生産及び貯蔵放棄の書簡を英国のマクミラン首相、国連事務総長其の他に発送した件。杉田鶴子女史はじめ多くの仏故会員の氏名を誦し慎んで黙悼を捧げた。会計は吉岡房子女史によつて報告、別載のように詳細は揭示説明により何等の疑義質問もなく承認された。

次で議案審議に入るに至り、推薦によつて龍副会長が議長席についた。

この時、日本医師会会長武見太郎氏の代理として太田清一氏祝辞を以て来場。医人総力厥集の最も必要な現在、全国女医の堅い結束は何よりも心強いと述べ、続いて現今の

社会保険医療内容を詳細に話された。

こゝで緊急動議がとりあげられ、日本女医会は日本医師会の適正に単価案を支持し、実現に努力する等の決議がされた。次で本議案、国際女医会加入の件が上提、これに関して通信事務を担当の龍副会長から次の説明があつた。

「先年（再発足総会以前）アメリカのリード女史が来朝した時に日本女医会も国際女医会に改めて再入会するように勧誘をうけていた。一方ロンドンのアカンシャ名譽書記からは会則、役員の名簿等を送つてよこしてある。国際女医会は学問的価値よりも、むしろ医師の向上、平和に貢献するという意味に於て高く評価されているようである。現在これに加入していない国はわずかに南米、共産圏諸国、朝鮮、中国（台湾は入つている）にすぎない。医学が世界の水準を上廻つてゐる日本がこれに加入していないのは如何にも非文化的に考えられる、日本の女医としての矜持を保つ上からも加入したいと考えている」

福原宏子女史から通信費、事務運営維持費等々についての詳細な質問、意見が数回に亘つて発せられ、三上ツズ子女史からの個人加入の問題、続いて仁尾千枝、西谷小枝子藤間身加菜、工藤愛子、菅沼女史等から夫々意見、質問続出。これに対して龍副会長は「加入は一国一団体制で個人加入は許されない。一団体から一人以上最大限六人までを

役員として総会に出席させる事が出来る。しかし旅費は自分持ちである。加盟国となり自国で会議を持てば当然、英仏語で翻訳したプリントを全会員に送らねばならない。其上、来会者に対する物心両面の接待も相当額を必要とし、維持費、通信費も計上して先方へ納入の会費と共に会費の決定もしなければならぬが………。

大橋りゆう子女史は二十八年前に国際女医会（当時の万国女医会）に代表として出席した時の経験を語り、是非早く加入をと強調。南静子女史も滞欧四年の経歴からとして賛成。山本杉女史、今日世は国際会議の時代である、日本女医会が国際女医会との加入を逡巡する時ではないと思う。日本は国聯にも加盟が出来た。又世界聯邦が呼ばれている。そして原子エネルギー、人工衛星の時代である。社会福祉に世界平和に貢献しなければならぬ。女医としての使命上、私共は発言の場を国際的に持たねばならない。一人一人が代表になる資格所有の自信を以て此際一人でも多く速かに国際女医会に加入すべきと思う。」この賛成発言を最後に議長は加入に対する賛否を問ひ、満場一致拍手を以て加入に決定。但し加入の時期及び国際女医会費は本部に一任となつた。

第二 議案

日本女医史に就て。福田幹子女史の説明。

「日本女医史は日本女性の解放史でもあり、社会史の上にも重大な意味のあるもので、この編纂問題はすでに第一回総会にも出ていた。編集に要する資料は故多川澄子女史宅に沢山保存されてあるから早く纏めたいと思う」これに対して満場挙手を以て賛成。

次で議案は其他の項に入る。

菅沼静子女史からは日本女医会支部の名称問題が提出された。これに対して名称は会の性格を現わすものであるから各支部とも統一して「日本女医会〇〇支部」とすることに満場一致可決。次は次回総会に關して佐藤やい副会長発言。「来年の総会は役員改選期に當る。現在の日本女医会の会則は第一回総会に於て作成されたもので、当時は会員も極く少なかつたので内容にも不備な点があつたと思う。従つて次回改選までには多少の規約改正も必要かと考える。改正の必要があるとするれば原案を現在の評議員会に於て作成し、総会にかけて決定の上、選挙としては如何かと思う」これに対して全員拍手を以て賛成。

最後に森千鶴子女史の極めて快調なる閉会の辞によつて総会の議事すべて終了。暫時休憩の後、会員期待の三神美和女史、中村光子女史の貴重な欧米視学談を伺ひ、一同は居ながらにして樂々と見聞を拡め大満悦裡に解散となつた。

（筆者は今総会の司会者）

帝國臓器の ホルモン製剤



天然卵胞ホルモンオバホルモン	注射液・錠剤・パスタ ベレット・パツカル	
女性用総合天然ホルモンオバホルモンA錠錠		剤
持続性強力卵胞ホルモンオバホルモンドポー	注射液	液
強力男性ホルモンエナルモン	注射液・錠剤・パスタ パツカル・ベレット	
男性用総合天然ホルモンエナルモンA錠錠		剤
持続性強力男性ホルモンエナルモンドポー	注射液	液
性腺刺激ホルモンシナホリン	注射液	液
黄体ホルモンオオホルミンルテウム	注射液・錠剤 ベレット	剤
黄体ホルモン混合製剤EPホルモン	注射液・錠剤	
男性ホルモン混合製剤ボセルモン	注射液・錠剤	
持続性 ^{男性} _{女性} 混合ホルモンボセルモンドポー	注射液	液
オキシトシン製剤アトニン-O	注射液	液
唾液腺ホルモンパロチン	注射液	液
血清性性腺刺激ホルモン製剤セロトロピン	注射液	液

製造発売元 帝國臓器製薬株式会社
東京都港区芝南佐久間町2丁目11番地



中外の主要製剤

★肝臓機能増強と抱合解毒作用を特長とする

グロンサン

注射液
末剤

★結核に・・・抗菌、解毒、生体保護を兼ねた

ヒドロサン

粉錠
末剤

★胃内を生理的条件下に保つ制酸潰瘍治療剤

アルミゲル

顆粉液
粒末剤

★糖尿病内服治療に・・・トルブタミド製剤

ジアルミン

粉錠
末剤

★幼小児の自家中毒防止、成長促進に・・・

グロンサン

顆粒

★胃酸過多、胃カタル、胃潰瘍予防の常備薬

カンゲル

錠剤

★単位正確、使用簡便な合成卵胞ホルモン剤

ロバール

注射液
液剤

★不安、緊張、神経症の精神・神経安定剤

トランザー

粉錠
末剤

★点眼、点鼻、噴霧用・・・局所血管収縮剤

ナーセル

液剤

★狭心症・心不全・心臓性喘息に卓効ある

アミプタン

注射液
液剤

★甲状腺機能亢進諸疾患の治療に

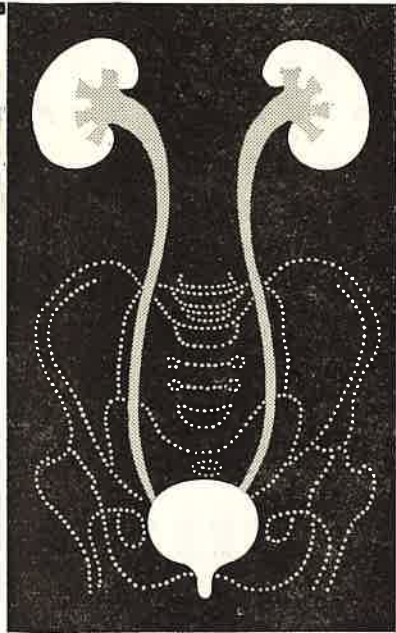
マルカゾール

錠剤

東京・中外製薬株式会社・大阪

大腸菌感染

腎盂炎
膀胱炎
尿道炎



………尿路感染の80%を占める大腸菌に対しては抗生剤にも増して、この新スルファ剤が効果的に用いられます。

健保	甲 1錠 10円50銭 8錠 10.2円	乙 1錠 10円80銭 8錠 11.0円	錠 30錠 100錠	末 25瓦 100瓦
----	-------------------------	-------------------------	------------	------------

健保適用

ウロサイダル

Sulfamethizole Eisai

排尿痛

尿意促進

尿意頻数

前立腺肥大症

婦人膀胱炎に伴う灼熱感

………などの炎症に用いて内服後、20~25分で尿中に移行し、ただれた粘膜層へ透過し数時間にわたり鎮痛消炎的に作用する。挿管、カテーテル挿入中の違和感、殺菌剤内服に伴う尿路刺激を緩和する。

錠 (50瓦) 30錠 250円・100錠 700円

ウロピリジン

錠

Phenylazo-2,6-diaminopyridineHCl Eisai

新発売

鎮痛消炎剤

東京都文京区竹早町

イーザイ株式会社

大阪・札幌・名古屋・福岡

U8

不安・緊張・抑うつ 筋肉緊張痙攣の除去

各科領域に
適用範囲の
拡大された

精神神経安定剤

TRANQUILIZER

アトラキシン

一般名

MEPROBAMATE



- ★ 自律神経系には作用せず、視床に選択的に作用します。
- ★ 筋肉痙攣及び神経性筋肉緊張の除去作用があります。
- ★ 従来の催眠剤のように、麻痺的な強制催眠作用はありません。
- ★ 直鎖状の安全な化合物で、事実上毒性はなく、副作用による障害も殆んどありません。



第一製薬
東京 日本橋

末	25瓦	100瓦	500瓦
錠 (200mg)	12錠	30錠	100錠
		500錠	1000錠

日本女医界支部長氏名

(10頁つゞき)

東京都

区名	支部長氏名	会員数	支部結成年月日
千代田	仁尾千枝(至)	七	昭31年
中央	荒川あさ(至)	二五	昭31年
港	松山みどり(至)	三十	昭31年
新宿	竹内茂代(至)	四二	昭32年4月20日
文京	未定	六	
台東	中山義子(至)	十八	昭31年12月6日
品川	未定	三三	
目黒	荒井尚子(至)	三六	昭32年11月24日
大田	藤間身加栄(至)	九四	昭31年12月16日
荒川	柴田キミ(至)	二九	昭32年9月28日
世田谷	佐前イクヨ(至)	八一	昭33年2月16日
渋谷	長山トシ(至)	二四	昭31年
中野	日吉すゑ(至)	四〇	昭31年
杉並	坂元八千代(至)	四二	昭32年5月6日
豊島	北沢あさを(至)	二七	昭31年
板橋	山田二三(至)	二三	昭32年
練馬	阿部秀世(至)	十四	昭32年2月24日
北	牧野操子(至)	二八	昭33年1月18日

府県別	支部長氏名	会員数	支部結成年月日
足利	中条みよ(至)	三一	昭32年4月28日
墨田	浮島せん(至)	十二	昭32年5月18日
江東	西尾範子(鶴)	二三	昭31年11月3日
葛飾	唐沢壽(至)	二八	昭31年6月17日
江戸川	上田たね(至)	十三	昭32年5月10日
北多摩	木俣はま(至)	四四	昭32年5月18日
八王子			
西多摩			
南多摩			
武蔵野			

府県別

府県別	支部長氏名	会員数	支部結成年月日
北海道	未定	十三	
青森	三上ホフ(至)	四九	昭32年10月20日
岩手	岩泉まき子(至)	十七	昭32年10月22日
宮城	未定	五	
秋田	未定	十	
山形	未定	二七	昭33年1月16日
福島	箱崎ギンヨ(至)	四〇	昭32年6月9日
群馬	真中すず(日女)	八	
埼玉	未定	三六	昭32年2月24日
栃木	瀧沢テル(至)	四八	昭32年10月20日
茨城	延島秀子(至)		

都内計 七五〇名

支部長氏名	会員数	支部結成年月日
千代田	六六	昭32年9月8日
神奈川	一一	昭23年2月23日
山梨	三七	昭32年6月9日
静岡	七五	昭31年6月24日
愛知	七八	昭31年9月2日
長野	四二	昭31年11月18日
岐阜	四三	昭32年9月15日
新潟	未定	
富山	四四	昭32年5月19日
石川	三六	昭32年8月25日
福井	十一	
大阪	二三〇	昭30年
京都	五	
滋賀	〇	
三重	九	
奈良	五五	昭32年5月12日
和歌山	四〇	昭32年9月8日
兵庫	一五四	昭31年10月
岡山	六六	昭32年2月24日
広島	八四	昭31年12月9日
鳥取	十七	昭32年9月28日
島根	未定	
山口	二四	

支部長氏名	会員数	支部結成年月日
香川	六四	昭32年6月30日
愛媛	三五	昭31年10月28日
徳島	四二	
高知	二四	昭31年
福岡	四五	昭32年9月22日
佐賀	三二	昭32年7月28日
長崎	二	
熊本	三六	昭32年9月25日
大分	二五	昭32年4月21日
宮崎	四	
鹿児島	四九	昭32年9月23日

会員総数 二、五八八名

(注) 未定の内にも既に支部結成申込みの処があります
ことを書添えておきます。



昭和三十三年庶務報告

四月 会議

主要事項

英国マクミラン首相、国聯事務総長其の他
に対し原水爆禁止と書簡を以て要請す。

四月二十日 新宿区支部結成

四月二十一日 大分県

四月二十八日 足立区

(佐藤、龍氏出席)

四月二十日 元日本女医会副会長評議
員杉田つる氏御逝去

五月 評議員会

総会開催の件

国際女医会加盟の件

五月六日 杉並区支部結成

(佐藤、龍氏出席)

五月十日 江戸川区支部結成

五月十二日 奈良県支部結成

五月十八日 墨田区支部結成

(佐藤、西尾氏出席)

五月十八日 三多摩地区支部結成

(福田、龍氏出席)

六月

役員会

五月十九日 富山県支部結成
(吉岡、佐堂氏出席)
社会保険に關して。

支部結成促進方法について。

六月九日 山梨県支部結成

(吉岡、龍氏出席)

六月九日 群馬県支部結成

(大村、小俣氏出席)

六月三十日 香川県支部結成

(佐藤、佐堂氏出席)

七月

評議員会

総会準備

七月三日 富山県支部長磯野あや子逝去

七月二十八日 佐賀県支部結成

八月二十五日 石川県支部結成
(佐藤、中川氏出席)

八月

評議員会

総会準備

九月八日 和歌山県支部結成

(佐藤氏出席)

九月十五日 千葉県支部結成

(竹内、龍氏出席)

九月十五日 岐阜県支部結成

(佐藤氏出席)

一月

役員会

日本女医誌出版について

国際女医加入方法

会則改正(会則第七条)

機関紙発行方法

汎太平洋東南アジア婦人会議の件

事務所の件

一月十八日 北区支部結成

一月二十六日 福島県支部結成

二月

評議員会

会則改正

汎太平洋東南アジア婦人会議出席候補の件

二月十六日 世田ヶ谷支部結成

(佐藤、龍氏出席)

二月二十三日 神奈川県支部結成

(佐藤、龍氏出席)

三月

緊急役員会

国際女医会総会出席者の件

機関誌について

会則改正

汎太平洋東南アジア婦人会議出席者に關し

十二月 評議員会

十一月 役員会

十月 総会

第二回総会開催於松本楼

十月二十日 茨城県支部結成

(龍、大村氏出席)

十月二十日 青森県支部結成

(佐藤氏出席)

十月二十二日 岩手県支部結成

(佐藤氏出席)

総会の反省と今後の方針

十一月 板橋支部結成

十一月二十四日 目黒区支部結成

(佐藤、龍氏出席)

国際女医会加入の件

役員改選について

会則改正の件

支部との連絡方法について

会計報告

前期繰越高	一一、八五五	三〇年度分	一一、八五五
収入入部	六五、八〇〇	雑収入	五五、〇二〇
合計	一二〇、八二〇	合計	一二〇、八二〇
支出出部	一、九〇〇	通信費	八〇〇
備品費	五九〇	印刷費	一六、一五〇
雑費	五九、五二五	支出合計	七八、二四五
差引残高	四二、五七五	三十一年度分	四二、五七五
収入入部	二八六、一〇〇	雑収入	六九、〇〇〇
合計	三三五、一〇〇	合計	三三五、一〇〇
支出出部	一六、七八八	通信費	二、五一九
備品費	二、五一九	印刷費	五、四七五
雑費	九八、七五二	支出合計	二八、七七八
差引残高	一一五、五五八	三十二年度分	二八、七七八
収入入部	六四二、四三〇	雑収入	六〇、三一〇
合計	七〇二、七四〇	合計	七〇二、七四〇
支出出部	七五、七三七	通信費	三、五五二
備品費	九〇、四五〇	印刷費	五、九二五
雑費	九〇、九一八	支出合計	一九〇、九一八
差引残高	五三二、三三四	三十三年度分	五三二、三三四

雑費	五、〇〇〇	安田銀行預金	四、九一三
消耗品費	一八〇	振替銀行預金	一三八、九一〇
支出合計	四三、〇八三	現金	三五、四七九
差引残高	五五、六六九	合計	三九六、〇六三
資産之部			
富士銀行預金	二二六、七六一		

(庶務報告終り)

第八回汎太平洋東南アジア
婦人会議の開催について

来る昭和三十三年八月二十日から同三十一日までの十二日間、東京都三鷹市の国際キリスト教大学において、第八回汎太平洋東南アジア婦人会議が開催されますがこの会議は太平洋及び東南アジア地域の婦人の理解と友情を育成し、世界の平和に貢献することを目的とするものであります。本年の議題は「太平洋及び東南アジア諸国の地域共同社会の発展と婦人の役割」についてであります。①食物と健康 ②地域共同社会の指導養成 ③人口問題と人口調節の三つの主題に重点を置いて討議が行われる予定であります。このように医学に関連の深い議題でもあり、また汎太平洋東南アジア婦人会議日本委員長星野あい女士

からとくに要請されるところがありましたので、日本女医会としてこれに参加することに決定し、至誠会より山本杉先生(加多乃会)より牧野夫佐子先生のお二人を代表として送ることに致しました。

なおこの会議は汎太平洋アジア婦人協会の前身である汎大洋婦人協会が一九二八年(昭和三年)ホルルで第一回会議を開いて以来戦争による中断をのぞいて三年毎に会議が開催されて来たもので、昭和三十年フィリッピンのマニラで開かれた第七回会議で出席者一同の強い要望により、このたびの第八回大会は日本にて開催することに決定をみたものであります。尙最初の予定では六名を代表として推薦することとし、(至誠会)山本杉、小野春生(鶴風会)宮坂登志子、大川智恵子(加多乃会)牧野夫佐子、堀菊子の六氏が代表として参加いたされる予定で御座いました。其後代表を二名にとの変更がありましたので詮考の困難が思われておりましたが、去る三月二十二日緊急役員会に於て万場一致、一名は山本杉先生残る一名は副会長福井繁子先生の御意見もあり関西より一名との事で、又竜先生の御厚意に依り鶴風会は此際乗権される事となり、前記の加多乃会より、牧野夫佐子氏を推薦致すことに決定致しました。

(森千鶴記)

編集後記

久しぶりに女医会誌の編集に手をつけて見ますと、なつかしいやら、うれしいやら、全くあれも、これもと思うことばかりです。早く雑誌の体裁にしたいこと、日本女医会名簿を作成したいこと、それにさきだつものは費用です。どうぞ皆様会費を支払つて下さい。会員の加入数を増加させて下さい。

●本会も国際女医会へ加入することに決定いたしました。千人団体加入なので申込がもう少し足りないの困つています。どうぞお早く御入会下さい。これは会費百五十円を添えてお申込下さい。

●なお三十三年度会費(三〇〇円)を御送金いただき度振替用紙を同封しておきました。

●本誌へご投稿をお願いします。

(幹)

「日本女医会誌」通刊第百廿号
昭和三十三年五月三〇日発行

定価 廿円

発行人 日本女医会
編集人 福田 幹
発行所 東京都新宿区河田町一九
至誠会本部 内
印刷所 東京都中央区西八丁堀三ノ三二
秀峰印刷株式会社

日本女医会会則

- 第一条 本会は日本女医会と名称し、日本女医を以つて組織する。但し外国婦人で日本女医会に加入する場合、日本で医師の資格を得た者で出身校、同窓会長の紹介によつて入会する事が出来る。
- 第二条 本会は会員各自の品性の向上、知識の進歩及び相互の親睦を計り、権利を擁護し協力一致社会に貢献し、人類の福祉を増進するを以つて目的とする。
- 第三条 本会は国際親善に寄与し、万国女医会等との連絡をはかるものとする。
- 第四条 此の目的を貫徹する為に定期の集会を開催し、雑誌の発行等もする。
- 第五項 総会は一年に一回開催するものとする。但し、時宜により臨時総会を開くこともある。
- 第六項 評議員会は隔月一回之を開き、決議事項は出席人員の半数以上の同意によりて決するものとする。但し、臨時に開催する事が出来る。
- 第七項 雑誌は日本女医会雑誌と名称し、本会の機関
- 第一条 本会は日本女医会と名称し、日本女医を以つて組織する。但し外国婦人で日本女医会に加入する場合、日本で医師の資格を得た者で出身校、同窓会長の紹介によつて入会する事が出来る。
- 第二条 本会は会員各自の品性の向上、知識の進歩及び相互の親睦を計り、権利を擁護し協力一致社会に貢献し、人類の福祉を増進するを以つて目的とする。
- 第三条 本会は国際親善に寄与し、万国女医会等との連絡をはかるものとする。
- 第四条 此の目的を貫徹する為に定期の集会を開催し、雑誌の発行等もする。
- 第五項 総会は一年に一回開催するものとする。但し、時宜により臨時総会を開くこともある。
- 第六項 評議員会は隔月一回之を開き、決議事項は出席人員の半数以上の同意によりて決するものとする。但し、臨時に開催する事が出来る。
- 第七項 雑誌は日本女医会雑誌と名称し、本会の機関
- 第五條 本会は本部を東京に置き、事務所を当分東京都新宿区市ヶ谷河田町拾九番地至誠会本部に置く。
- 第六條 本会は地方会員と連絡を計る為に地方に支部を置く。
- 第七條 本会に左の役員を置く。
会長一名、副会長四名、評議員若干名。
- 第八條 会長、副会長、評議員は総会に於いて之を定める。但し、欠員を生じたる場合は評議員の決議により之を補欠する。
- 第九條 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は之を代理する。副会長に事故ある時は評議員の一名が之を代理する。
- 第十條 会長、副会長、評議員の任期は満三ヶ年とする。
- 第十一條 本会の庶務、会計及雑誌の編集は評議員がこれを分担する。
- 第十二條 本会の会費は一ヶ年金參百円とする。
- 第十三條 会員死亡の際は本会より相当の弔意を表するものとする。
- 第十四條 本会会則は総会において会員の決議によらなければ変更することが出来ない。以上